

MeBio 数学テキスト

林先生の初耳講座  
2017年7月

—問題と解答—

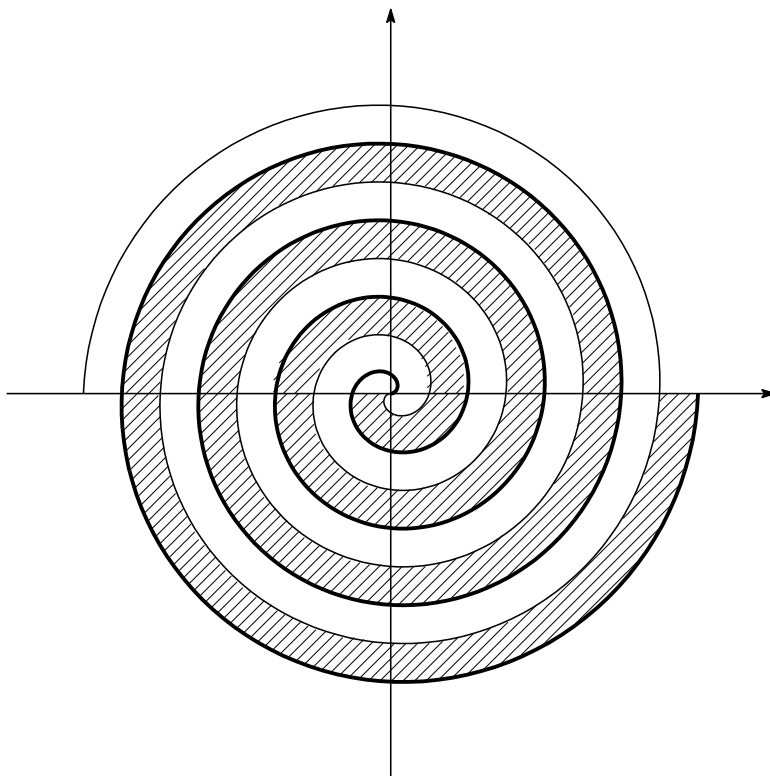
# 第 1 章

## 問題

### § 1 問題

「林先生の初耳講座」で次のような問題が出題されていました。

東進の問題 1-1-1 図のような蚊取り線香での長さの中心はどこか. 両側から燃やしたときどこで燃え尽きるかということです. **まずは「どのあたり」と感覚で教えてください,**



厳密に考えるのは色々問題とあります. ある程度の誤差を認めて数値的に場所を特定してください.

## 第 2 章

# 解答

### § 1 番組で紹介されていた解答

極座標  $(r, \theta)$  で考える. 中心は無視すると, 外周部では蚊取り線香の太さは一定だろうから,  $\theta$  と  $r$  は一次関数の関係にあるだろう. 適当に相似変換して  $r = \theta$  と思ってよい. 実際前ページの太線は  $r = \theta$  ( $0 \leq \theta \leq 8\pi$ ) のグラフである. (細線は  $r = \theta - \pi$  ( $\pi \leq \theta \leq 9\pi$ ))

従って  $x = r \cos \theta = \theta \cos \theta$ ,  $y = r \sin \theta = \theta \sin \theta$  と表されることになり, 蚊取り線香の  $0 \leq \theta \leq \theta$  の部分の長さ  $l(\theta)$  は外周で測って

$$\begin{aligned} l(\theta) &= \int_0^\theta \sqrt{\left(\frac{dx}{d\theta}\right)^2 + \left(\frac{dy}{d\theta}\right)^2} d\theta \\ &= \int_0^\theta \sqrt{(\cos \theta - \theta \sin \theta)^2 + (\sin \theta + \theta \cos \theta)^2} d\theta \\ &= \int_0^\theta \sqrt{1 + \theta^2} d\theta \\ &= \frac{1}{2}\theta\sqrt{1 + \theta^2} + \frac{1}{2} \log(\theta + \sqrt{1 + \theta^2}) \end{aligned}$$

ということになる.<sup>1</sup>

$l(8\pi) = 2l(\varphi)$  を数値的に解くと  $\varphi = 5.640\pi$  となり, 内側から  $1015^\circ = 990 + 25^\circ$  まわったところが中央とわかる. (中心は誤差が大きいのので, 外側の端点から  $425^\circ$  戻ったところという方がよいかもしれない.)

### § 2 別解

番組ではこれを「10 秒以内に答えよ」といていた. 上の解答だと何分あろうが数値計算できないだろう. もっと実行可能な概算が必要である.

燃焼した部分の面積で考えると簡単に求められる. 前ページの蚊取り線香を 2 本合わせた領域は, ほぼ半径  $8\pi$  の円と見なしてよいだろう. 中心から半分の距離まで燃えた領域の面積はその半分だから,  $\frac{1}{2}\pi \cdot (8\pi)^2 = \pi r^2$  を解くと  $r = 4\sqrt{2}\pi = 5.656\pi$  となる. これは  $1018^\circ$  だから, 先程の答と  $3^\circ$  しか違わない.

前§の積分との比較でいうと,  $\sqrt{1 + \theta^2} \doteq \theta$  としたことに相当する, 誤差が  $O(\log \theta)$  であることは容易にわかる.

### § 3 別解 2

大川内さんが次のように解いてくれました,

<sup>1</sup>長さは内周と外周の中央で測るのがよいとか, 原点付近の太さは一定ではないだろうとかいうのは無視する.

太線部分を, 含まれる象限が切り替わるごとに分割して, 16 個の部分にわかる. 全部の長さは  $1+2+3+4+\dots+16 = 136$  と概算できるので, 半分の長さ 68 になるのは  $(1+2+3+4+\dots+11)+2$  であろう. つまり長さ 12 に対応する 4 象限の部分を  $\frac{2}{12} \times 90^\circ = 15^\circ$  まわったところと考えられる,<sup>2</sup>

これだと小学生でも考えられそうです.

---

<sup>2</sup> 最初の  $1+2$  は内周の細線が存在しないので, 面積を感覚的に 1 ぐらいと思って補正すると,

$$\frac{1}{2}(1+3+4+\dots+16) = 67 = (1+3+4+\dots+11)+3$$

で, 長さ 12 に対応する 4 象限の部分を  $\frac{3}{12} \times 90^\circ = 22.5^\circ$  まわったところと考えられる, こちらの方が正解に近いだろう.